過年度の意見書への反映状況について

参考資料４

■　令和5年事業年度の業務実績に関する評価結果にかかる意見書（令和6年8月5日　2その他の意見）

意見	反映状況	回答
(1) 研修の充実について		
実施する研修に関して、開催回数だけでなく、内容の充実を図るため、受講者からの評価や改善に関する意見を聴取し積極的に反映することで、今後の研修内容の充実に繋がるような取組みを進められたい。	○府内関係職員に対する技術研修を35回実施した。 ○公衆衛生関係者や大学生204人を対象に研修を実施した。 ○水道水質検査外部精度管理では、外れ値を提出した参加機関に対して、その原因究明と改善のためのフォローアップを実施した。また、受講者の意見を積極的に取り入れるためにアンケート等を実施し、研修内容の充実を図った。	法人
(2)広報活動の強化について		
ホームページだけでなくSNS等の媒体を活用するとともに、地道な広報活動により報道機関との関係性を構築するなど、戦略的･積極的な情報発信に努められたい。	○報道機関に対する連絡会を毎月１回開催し、大阪府の感染症情報等について解説を行った。 ○広報紙「大安研ニュース」、メールマガジン、YouTube「大安研ちゃんねる」や大阪府健康アプリ「アスマイル」を通じて、法人の役割や健康・安全に関する情報を発信した。 ○開かれた研究所を目指し、小学生向けのイベント「夏休み科学体験」に加え、新たに「大安研公開講座」を開催し、感染症についての講演を実施した。	法人
(3)健康危機事象発生時における対応について		
健康危機事象発生時に、各関係機関とも連携し、引き続き科学的かつ専門的な機関としての役割を果たせるよう検査体制の維持向上に努められたい。	○紅麹配合食品に係る健康危機事象への対応として、大阪市からの依頼に基づき、多様な専門性を有する人材や幅広い分析機器を有する法人のスケールメリットを最大限に活用し、原因究明のための検査体制（衛生化学部・微生物部）を速やかに整備した。大阪市との緊密な連携の下、科学的知見をふまえ、大安研が検査方針や対応策について積極的に提案した結果、状況に応じた柔軟な検査対応が可能となった。	法人
(4)研究の充実について		
調査研究については、着実に取り組んでいることを評価する。 今後新興感染症発生時に、公衆衛生政策の判断に資するような研究に取り組んでいただきたい。	○薬剤耐性菌や新型コロナウイルスなどの病原体についてゲノム解析を実施した。特にバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）の院内感染事例においては、患者疫学情報と合わせて解析し、保健所及び医療機関に情報提供を行った。 ○日本国際博覧会に向け下水サーベイランスの有用性を実証する準備として、効率的な検体採取と前処理法を確立し、検査法（デジタルPCRによる多項目RNAウイルス検出設定と高感度検出法等）ならびに実施体制を構築した。	法人
(5)独法化及び統合のメリットを活かした組織体制について		
独法化及び統合の効果を最大限発揮し、法人が先駆的な地方衛生研究所として更なる人材育成や組織づくりに努められたい。	○薬剤耐性菌や新型コロナウイルスなどの病原体についてゲノム解析を実施した。 ○先進的サーベイランス研究推進事業および目的積立金を活用し、下水サーベイランスの検査法や実施体制を構築し、阪大微研、ＯＩＲＣＩＤ等の関係機関と進捗状況等を共有した。 ○前中期目標期間繰越積立金を効果的かつ効率的に活用するため、科学研究費申請促進事業、オープンアクセス支援事業、若手研究員スタートアップ支援事業等に充てた。	法人